

2011 年 1 2 月 1 7 日

第 1 1 号

# 自然と文化だより

発行NPOシニア自然大学校

自然と文化科

## ====目次=====

P1 「副代表のメッセージ」

P2 新専任幹事のページ  
社会貢献活動について

P3 今号の TOPICS  
高野山雑考

P4 仲間たちの近況報告  
4 班 イギリス旅行  
2 班 私の趣味力又一遍歴

P5 リレー随筆  
思うこと  
私の玉手箱  
裂き織り

P6 俳句サロン コーナー  
絵手紙・絵画・写真コーナー

## ◇自然と文化だより

今回の 1 1 号から編集・字体を少し change してみました。紙面も新たに、また HP のデザインも change を検討中で広報からの情報内容に少し変化が見られます。皆さまの機関誌ですから原稿の投稿、例えば、紀行文、絵画、絵手紙、俳句、川柳、写真などの作品をどしどしメールで提供して下さい。スタッフ一同お待ちしております。(N.Tak)



## ★積極的に参加して楽しみましょう★

社会貢献・総務 肥塚 眞

本年 4 月に当科代表が九津見さんから武井さんにバトンタッチされ、新しい体制のもと各事業が運営されて、早や 8 ヶ月が経過いたしました。

今年は、例年以上に活動日に雨が多く中止になった行事が数回ありましたが、4 つの班と企画、観察、調査、社会貢献、広報、総務等の 6 つのグループを中心に、工作、箕面探索の両同好会も加わり、積極的に様々な活動に取り組み、お陰様で事業計画は順調に推移しております。

行事などへの出席率も、現時点までの累計で昨年とほぼ同じ水準（70%前後）で、科員の皆さんに何とか満足いただけたものと思っております。

各行事運営への担当グループ・メンバーの参加は、これまで幹事任せになりがちでしたが、企画・観察・社会貢献などで従来以上に多くの委員の方が参加された感じがしました。

本年度の課題であります班別活動も、行動する班のグループの組み換えなど科員相互の交流を出来る限り円滑にする工夫があり、比較的順調に前進していると思います。

しかしながら、これから定例の行事のみならず、研究部活動発表会（準備・リハーサル・本番）、次期体制への検討など大きなテーマが出てまいります。特に、運営体制に関しましては、「科員増加への対策」が、この 2 年間予想した増員にならなかったこともあり、先送りとなっておりますが、本格的な対策を検討する必要があります。

担当の社会貢献 G の活動は、前半がほぼ休眠状態だった反動で、後半に集中しました。「OG 観察会/京都植物園と京都御苑」、「万博ごみゼロウオーク」、「労金まつり」、「箕面の山の大掃除大作戦」、があり、多くの科員の皆さんにご協力頂きましたことを、感謝しております。

当科活動方針の通り、科員全員が積極的に事業に参加し、全ての活動が「参加して楽しいもの」になるよう願っております。

“自然の営みを理解し、人の活動を歴史的に捉え、人と自然の付き合い方を考察しよう”。

## 社会貢献活動について思ったこと

### 社会貢献 山下 勝弘

今年度の社会貢献活動は春には活動の機会がなく、秋に京都植物園と京都御苑の2回のシニア自然観察会、万博ごみゼロウォークと箕面の山大掃除大作戦の2回の清掃活動、労金まつりが10月から12月初めに集中して、俄然、その準備と実施で忙しくなりました。皆様のご協力で、予備下見、下見の準備をして、シニア自然観察会は2回とも、好天に恵まれて参加された両老人福祉センターの皆さんに大変喜んでいただけたと思います。今回、広報から「自然と文化だより11号」に専任幹事の思いを投稿するように依頼がありましたので、シニア自然観察会を終えて思ったことを記載します。

シニア自然観察会は大阪ガスグループ福祉財団が実施されている高齢者福祉助成事業のひとつとして委託を受けています。お客様に選んでもらった観察場所を社会貢献幹事と数人のキーマンで予備下見をして、コースと草本を選び、案内図と観察ガイドを作成、多くの観察リーダーと下見をして、資料の最終チェックをして、大阪ガスグループ福祉財団に印刷のお願いをします。観察リーダーにはコースの確認と、観察ガイドに沿った説明材料をいろいろと準備していただきました。また、毎回、参加者にプレゼントする「もく君」を作られる工作の達人など、自然と文化科の多くの仲間の力が結集し、また、老人福祉センターの方は人集めと当日の付き添いをされました。このように、多くの方々の支援の繋がりでシニア自然観察会が実施出来ています。東日本大震災以降、絆が話題になっていますが、自然と文化科85名の潜在パワーを結集すれば、まだまだ世の中の役に立てることが出来そうに思います。

今回、シニア自然観察会に参加された方々に一口感想をお願いしましたところ、多くの方々から勉強になったと云っていただきました。これはこれで嬉しいのですが、また、多くの方が普段は気付かなかった草本に気付かせてもらったと云う感想を寄せられ、大変嬉しく思いました。

次回も、自然と文化科のパワーを結集して、参加者が自然の癒しに気付くきっかけになるような自然観察会が出来ればと思います。最後に、京中央老人福祉センター様から次の様な嬉しいメールをいただきましたので紹介します。

先日は大変お世話になりました。ありがとうございました。引率の職員から当日の様子を聞きました。説明だけでなく、全体の流れを見てくださったり、時間配分の調整をしてくださりありがとうございました。又、遅れてきた方に対してや、参加者間の体力の差などにもご配慮いただいたそうで、ありがとうございました。このような面ではこちらの準備不足を痛感いたしました。申し訳ありませんでした。

参加者の方々からは、「もっとお話を聞きたかった」、「季節が変わったらまた（植物園に）来ます」、「今日の復習をしにまた来るわ」、「他の季節にまた実施してほしい」など、うれしい声をいただいております。お土産もとても好評でした。

引率職員も、「個別に来たら通り過ぎていたろう木々を念入りに観察し、お話を聞かせていただいて、植物園の楽しみ方をはじめとして、たくさんの方の事を教えていただき、一参加者として楽しませていただきました」「日頃、みなさんが大変素晴らしい活動をされ、活躍されていることが、みなさんの生きいきされている様子から伝わってきた」と申しております。

充実した素晴らしい講座をどうもありがとうございました。また、お世話になりたいと思いますので、その時はどうぞよろしくお願いいたします。

季節の変わり目ですので、お身体を大切になさってください。



「シニア自然観察会・京都府立植物園」を10月18日に実施しました。



高野山雑考

3班 堀川豊司

班会議で広報担当幹事さんから、折角の高野山研修だから真面目に書くようにと下知を受け、気の弱い私は強くプレッシャーを感じながら研修とお餅拾いに参加しました。

平成 21 年の信濃善光寺御開帳に参詣した際、善光寺のみの参拝は「片参り」になると云われているので、上田別所温泉の善光寺の方向に祀られている「北向き観音」へ。そこには川口松太郎の「愛染かつら」のモデルとなったカツラの大雄木がありました。ここから東南方向に岩が屹立する奇勝の「独鈷山」があります。その昔、霊地を求めて空海がこの地を訪れ、大層気に入られ、この山の谷の数が百以上あれば、この地に決めようと思い、谷の数を数えれば、な—んと「99」だったそうです。空海は大層、「ガッカリ」して、独鈷と云う仏具を山頂に埋めて、次の地を目指して旅立たれた。その結果が高野山ということになるのでしょう。



別所温泉付近からの独鈷山

通じていました。そこで、折角の高野山であるので廁の「コウヤサン」との関係を勝手ながら、少し調べてみました。



上田市指定文化財 愛染かつら

平安時代の初期に空海が開山した高野山の寺院や民家では、転軸山（てんじくさん）から48谷を流れる用水を山内にひき、竹筒などで、まず台所や風呂場に配水し、その余り水を便壺のない廁の下に流し、排泄した屎尿をこの水と共に道端の下水を通り近くの川に流し去って陰所川（おどがわ）に至る。今の御殿川である。奥の院一の橋を通り南へ約4km。糞滝とも云われ、畏れ多くもお不動さんが鎮座する40mの大滝（地名）へ。そして有名な鮎釣り場であった有田川へ。かつては「有田川の鮎は、よく太って美味しい。」と云う通説もありました。

川柳に「干ばつに高野の奥は糞の山」とある様に、交通が便利になり参詣人も増加した昭和になると、糞塊の堆積や赤痢・チフスなどの伝染病の多発が社会問題化し、弘法大師千百年大遠忌に備え試行錯誤を重ね、昭和11年には近代的な下水道に改善されました。

そこで、「廁」を何故「コウヤ」と云うのか？ 高野山の僧侶は髪（カミ→紙）を落とすからという。では何故、高野山か？当時比叡山もあったではないか。それに当時、紙は貴重品、平安のやんごとなき姫でも紙は使えなかった。普通の庶民が紙を使えるようになるのは、明治以降だそうです。

漢名「廁」を「カワヤ」と呼ぶのは「川屋」からで、高野山のトイレはその「川屋」であった。「カワヤ」が「コウヤ」に転訛が現在の定説とか。



最後に硬い話。「コウヤサン」での、用便時の偈は「大小便時 当願衆生 蠲除煩惱 滅除罪法」、真言は「オン クロダノウ ウンジャク」（金剛峯寺廁より転写）。（参考：蠲除（けんじょ）：はらいのぞく。真言は烏枢沙摩明王の事）。では、スッキリとして、にこやかに「コウヤサン」を出しましょう。合掌！

金剛峯寺廁にて

## イギリス旅行

## 4班 溝部 浩二

2011年9月に9日間かけてイギリスへ行ってきました。湖水地方を中心にイギリスの田園風景を満喫できた旅でした。小説「嵐が丘」の舞台、ハワースから湖水地方のグラスミア、ウィンダミアなどを廻って、コッツウォルズ地方へ足を延ばしました。行く先々でセイヨウトチノキやリンデンバウムの大木、ナナカマドの赤い実が目を楽しませてくれました。また、少し村を離れると、羊や牛の群れが草をはむ広大な牧草地が連綿と続き、ところどころにヒースが紫色の絨毯を敷き詰めたように生い茂った荒野が点在し、印象に残る風景でした。

村の家々の壁や屋根も石やこの地方特産のグレーのスレートを積み上げており、重厚で趣ある雰囲気は100年前とあまり変わらない風景で、田園の自然と歴史が美しく調和しているように感じた旅でした。

このような自然や歴史遺産が保たれている背景の一つに、民間の自然環境保護団体であるナショナル



ル・トラストの存在があると言われていました。既に100年以上も続いているナショナル・トラストですが、『1人の1万ポンドよりも1万人の1ポンドを』、そして『す

べての国民が自由に走り回れる土地を守ろう』との呼びかけで、広く国民から寄付を募って土地や建造物を買取り、貴重な自然や歴史的遺産を保存しているのです。湖水地方はナショナル・トラスト発祥の地であり、房総半島の半分くらいの大きさで、そのほとんどが国立公園ですが、全体の四分の一がナショナル・トラストの所有とのことです。

この湖水地方にはウサギの絵本で有名なピーターラビットの作者ビアトリクス・ポターが住んでいた農場も残っています。湖畔から田舎道を登って行ったところにある土地は、彼女がナショナル・トラスト運動に賛同して寄贈したものです。建屋の壁はツタが絡まるクラシックなグレーで、「ドングリとオークの葉」のマークの付いた緑と白のナショナル・トラストの標識が掛かっており、ナショナル・トラストが所有・管理していることが分かります。旅行中あちこちでこのマークを目にしたものでした。

今回の旅行の収穫は、イギリスの歴史と伝統に裏付けされた豊かさを実感できたことと、イギリス人の自然環境保護に対する思いや田園を愛する気持ちがいかに強いかがよく分かったことでした。

## 私の趣味カヌー遍歴ミニミニ冒険

## 2班 飯田義宣

し水面に近い目線で波に揺られながら、川を下って行く。驚いた水鳥が飛び立つ。しかも、さらさらと言う音が聞こえるような清流。空気の上に乗っているような錯覚を覚える、そんな透き通った海・川に行きたいとカヌーを始めた。

木津川、笠置から木津までのレッスンを重ね、最初に連れていってもらったのが、山陰海岸だ。岩美町の網代魚港から漕ぎだし、浦富海岸、羽尾を経て、東浜海岸、居組、諸寄、浜坂、田井、三尾、但馬御火浦、伊笹岬、最終は鎧で上陸。2泊民宿の行程だ。途中カヌーしか入れない洞門めぐりをしながら艇を漕いで行く。手さぐりで、真の闇の中、細い岩の間を通り100mくらいを過ぎると洞窟の天井から差し込む光で、コバルト色の海水がきらきら光って透き通っている。空気の上に浮かんでいる、そんな感覚を味わった。

由良川から栗田湾に入り、天橋立から宮津湾舟屋の里伊根に行った時もそんな感覚を味わった。志摩半島賢島・瀬戸内海の日生に行った時も。

調子に乗って行ったのが沖縄のケラマ諸島だ。座間味港から出発し、古座間味ビーチ・安室島を経て、その日は少し波があったが、自分たちの二人艇シーカヤックは無事に渡嘉敷島に着いた。もう一隻は波に打たれて3mくらい撥ね飛んで「沈」(カヌー仲間はコケルことを沈と言う)、壮烈なものだった。結果的には無事だったが、食料品がやられたらしい。翌、対岸の阿嘉島に渡るといふ。展望台から見ると沖には白波が立っている。意を決して漕ぎだす。少し沖に出ると、横で漕いでいたはずのスタッフの艇が見えない。波が高いのだ。5メートルもある波が前から押し寄せてくる。相棒とコケないようにパドルをさばく。火事場の馬鹿力、体力のすべてを使っている。阿嘉島近くになると嘘のように波がない。ああ、助かった。もうぐったり、腕がケイレンしている。後か



ら追いかけてきたスタッフに激怒された。お前ら、死ぬ気かと。

今夏、懲りもしないで、久しぶりに山陰海岸に行った。ドライスーツを買ったことだし、まだやるつもりだ。



## 思うこと

1 班 山本祥子

1つ1つの商品が1つ1つの照明に照らされているような、まばゆい店々が続くモール街、早朝まだ人通りもないのに、どぎついほどの色彩で動くネオン広告（ゲームの店だったっけ）、3月11日以来、こんな光景を見るたびに神経が反応してしまう。また、山あいの集落を流れる溪流を見ると、この流れでこの集落のための電気、供給できるんじゃないかとか、森の中に放置されている間伐材を見ると、「もったいないなあ！チップにできるのに。」とってしまう。以前にはなかった習性だ。

東日本大震災の日の、アメーバのような触手を伸ばして、とどまることなく陸地を覆い尽くしていく津波の映像、翌日、翌々日などの原発事故に関して、「今すぐ、影響はありません。」と解説している場面の遠景で白煙を立ち上らせる原発建屋の映像に胸が痛くなった。早春の陽光のもと、静かに美しくたたずむ福島の田園は「放射能に汚染されてしまったんだ！」と悔しさに涙があふれた。

地震、津波の膨大な被害からの復興のたいへんさは言うまでもないが、地震国に住む私たちの先祖はそれ乗り越えて、とぎれることなく生活を再建してきた。今回の天災も時間はかかるかもしれないが、きっと乗り越える時が来ることを信じられる。

しかし、福島第1原発の事故による被害は人災であり、解決できない問題を山積している。同じく原発の大きな事故のあったチェルノブイリの周辺では広大な地域の除染はできず、300年間は人が住めないという（朝日新聞2011. 11・23の記事より）。地震の被害が比較的少なかった福島の山間部の地域でも、まき散らされた放射能のため、生業を奪われ、故郷を追われ、子どもを安心して産み、育てられなくなってしまった。こんな理不尽があろうか。ただでさえ狭い国土を汚し、使えなくしてしまった原発の事故。54基も密集している原発は、他の場所で事故が起こらない保証は何もない。大事故には至らなかったものの、あわやという事故は何度も起こっている。福井で同じような事故が起こったとしたら、近畿の被害は想像を絶する。

脱原発、反原発を主張することは決して情緒的なことではない。プルトニウムのような人間の生存と相容れない猛毒の物質も生み出すのだ。こんな危ない物の上に築かれた繁栄を謳歌することはもうやめるべきだ。3月11日は、このことをしっかり思い出させてくれた。暖房を我慢して重ね着し、かわいい孫たちの顔を思い浮かべながら、脱原発のために、バアちゃんができることは何でもしたいと、思いを巡らせている。

## 私の玉手箱

## 裂き織り

1 班 堀田 和子

「裂き織り」ってどんな織りなのか、知っていますか？ 明治末から昭和初期くらいまで多くの土地で織られ、使われていたそうです。

私は10何年前、裂き織りの展示会を見せて頂く機会があり、びっくりさせられました。不要になった布を細かく裂き、横糸として織りあげている。織り模様もどんなになるか楽しみ。

早速展示会をしていた会に加えて頂き、始めることになりました。織るには横糸になる布の準備、最初に着物をほどく、洗う、裂く（良く裂ける布だとストレス解消）裂けない布はハサミかカッターで切る。それからの作業なので、かなり時間と手間のかかる織りです。

時間と共に色褪せ、くちてしまった布が新しい命をもらい、全く違った輝きで甦ります。究極のリサイクルの裂き織りで、エコだと思って楽しんでいます。少しだけ母の残してくれた着物を再生し、形にして使用しているのも喜びです。

着物の胴裏は黄ばんでいたりするので、散歩の途中で摘んできた草で染め、これも裂いて織っています。染める布は少しだけ、この草はどんな色に染まるかな、どんぐり、ヤシャブシ、ソヨゴ、ビワの葉、ヨモギなどなど・・・思ってもいない色に染まると感動します。少々の染めむらがあってもこれも織れば味なもの。

出歩くことが出来なくなったら、裂き織りを楽しみたいと思っています。





俳句サロン コーナー

松平 吉生

檜扇の草むら越ゆるカーヴかな  
鳩は何も知らずに飛んで広島忌  
いっせいに鳴き止む蟬の虚空あり  
憲法九条に深く錨を雲の峰  
ビール干し潮目を語る男かな  
青どんぐりちょっきり虫に剪られけり  
石畳ひろびろと見ゆ秋扇  
鷹渡る牛の糞（せ）らるること知らず  
登高や聴きたきものに石のこゑ  
秋深し罪なき目をして魚かな

絵手紙/絵画/写真 コーナー



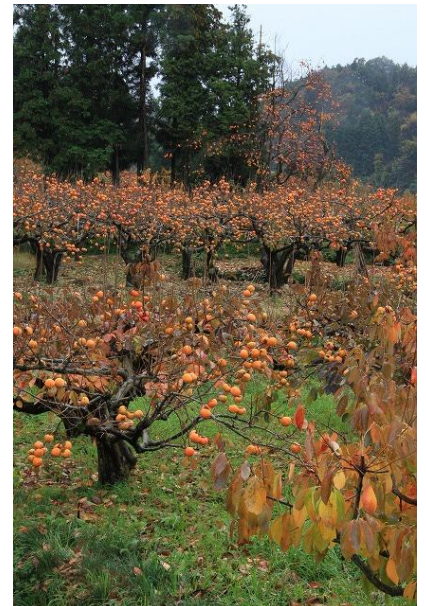
宮阪信次さんの作品

谷坂 修二

朝霧や象かと思ふ五輪塔  
柿紅葉迷彩色で目立ちをり  
はうき雲うれひを払ふ秋の空  
熟し柿初恋の味そつと噛み  
冷えるほど赤く燃え立つもみぢかな

山上 恵子

大事小事私事の不安や去年今年  
十年日記入手してをり去年今年  
若狭湾大跨ぎして冬の虹  
竜巻の並び来たりし冬の湾  
団栗の音のせぬさま苔の寺  
苔寺の読経の声や紅葉燃ゆ  
孫の手の冷えて届かぬ痒き場所  
句を作る悶々として夜着重ね



星田京子さん作品 3点 鳥取・奈良での風景



山本祥子さんの作品

自然と文化だより  
皆さんのご協力により11号が発行出来ま  
した。次号をお楽しみに！（広報）